



第7号

「めぐみちゃんの まちづくりだより」

～ 市民と農家の宝もの けやきの里のめぐみです ～

西東京市では、農業者と市民が相互理解を深め、都市の農業・農地が持つ多面的な機能を発揮させることにより、農地の保全を図っていくことを目的に、「都市と農業が共生するまちづくり事業」を進めています。平成24年度に援農ボランティアのスキルアップと子どもたちの農とのふれあいを目的として開設された『農のアカデミー体験実習農園』では、平成25年度は2年目で昨年度の計画を活かしながら活動を継続しています。

事業の
ねらい

援農ボランティアさんたちにとっては、
農を知り、農を学び、農を楽しむ。
子どもたちにとっては、
農を楽しみ、農に親しむ場とします。

事業の
効果

**農の生涯学習を
目指しています。**

1 農のアカデミーの運営

農のアカデミーでは、援農ボランティア養成講座を受講した市民の方々の更なるスキルアップを図るため、農のアカデミー体験実習農園にて、指導農家さんから農園での作業について指導を受けています。援農ボランティア用の区画では、季節毎の作付計画に沿って野菜を育てています。また、参加団体の区画の管理や、子ども達への農業指導を行うことで、農業の理解をより深めることにもつながっています。



作業前のミーティング

春作の作付準備



2 援農ボランティアのスキルアップ

平成25年度は、新たに3名の援農ボランティアさんが加わり、計10名の援農ボランティアさんと5名の指導農家さんで活動を行っています。4月に春・夏野菜の作付準備から作業がスタートしました。今年度は、ダイコンやエダマメ、トマトなどに加えて落花生とモロヘイヤも新たに作付します。



4～7月の主な作業

- ・ 作付準備 (春・夏野菜)
- ・ 種まき (トウモロコシ、ダイコン、落花生、エダマメ、ネギ、ホウレンソウ)
- ・ 定植 (リーフレタス、果菜類、モロヘイヤ)
- ・ 支柱立て
- ・ 除草、間引き
- ・ 収穫

援農ボランティアさんの活動も2年目に入り、テキパキと作業するので、指導農家さん達もビックリするくらい、あっという間に作業が終わります。作業の合間には、皆さんでおすすめの調理法や援農先での作業の話、農家さんへ質問をしたりと和気あいあいです。



3 子どもたちの農業体験

農のアカデミー体験実習農園では、指導農家さんと援農ボランティアさんの指導による子どもたちの農業体験も行っています。平成25年度は、栄小学校、保谷第一小学校、芝久保小学校、つくし幼稚園、ひなぎく幼稚園、宝樹院幼稚園、下保谷児童センター（クッキングサークル、学童サークル）の子どもたちが体験事業に参加しています。



農家さんから作業の説明や西東京市の農業についてお話してもらいます。



農家さんやボランティアさんが優しく教えてくれます。



エダマメの種

美味しく、大きく育つと良いね！



これは何の野菜か分かるかな？
農家さんが案内しながら解説してくれます。



下保谷児童センターの子どもたちが
4月に定植したリーフレタスは
こんなに大きくなりました。

4月に小学校と幼稚園の子どもたちは、エダマメの種時を行いました。幼稚園の子どもたちは、成育観察にも農園を訪れています。また、下保谷児童センターの子どもたちは、エダマメの他、トウモロコシやネギ等の種時～収穫を行いました。

4 夏の大収穫祭

7月9日（火）に宝樹院幼稚園の園児18名、指導農家さん、援農ボランティアさんと丸山市長が参加して「夏の大収穫祭」を行いました。収穫を行う前に、指導農家さんからエダマメの根についている小さな丸いコブのような形をした根粒菌の説明や、エダマメの成長の様子についてお話をしていただきました。子どもたちからは「エダマメの種はどうやってとるの？」「エダマメは何でサヤから簡単に豆を取ることができるの？」などの質問があり、指導農家さんが丁寧に子どもたちの質問に答えました。



指導農家さんからの説明



園児と丸山市長で協力して
エダマメを採ります。



エダマメを収穫した後は、茹でたてのエダマメを試食しました。エダマメが大好きな子もエダマメが苦手だった子も、採れたてのエダマメはおいしいと、たくさん食べていました。

みんなで食べる
採れたてのエダマメ
は最高だね！



西東京市では、貴重な農地を残していくために、「東京都農業・農地を活かしたまちづくり事業」を活用した、「西東京市都市と農業が共生するまちづくり事業」をすすめています。「農のアカデミー体験実習農園」は本事業の支援を受けています。

発行：西東京市
生活文化スポーツ部
産業振興課

